

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
114	川崎市立はるひ野小学校	秋山 直子

学校教育目標	学校経営の目標	中期経営目標(R5～R9 5年間)
小中で共有 ○自分を生かして豊かに生きる [知力] (楽しく学ぼう) ○思いやりをもって生きる [心情] (助け合おう) ○心身ともに健やかに生きる [体力] (明るく生活しよう) ○人々とともに生きる [小中連携] (だれとでも仲良くしよう)	「小中連携」と「ハートフルはるひ野プラン」の実践 ○知力：確かな学力を育てる教育の推進 ○心情：豊かな心を育てる教育の推進 ○体力：健やかな体を育てる教育の推進 ○小中連携：小中連携教育と地域とともにある学校づくりの推進	○知力 ○資質・能力の3つの柱を育成する教育の推進 ○個に応じた支援教育の推進 ○心情 ○人権尊重教育の推進 ○自他を尊重する思いやりの心の育成 ○体力 ○健康で安全な生活を目指した教育の推進 ○食育の推進と健康な身体への育成 ○小中連携 ○小中連携教育の活性化 ○学校運営協議会による学校改善と開校20周年準備 ○家庭・地域社会と連携した教育の推進

今年度の経営目標 小中連携教育の活性化と自他を尊重する心の育成	1 (知力) ①質の高い学びの実現 ②個に応じた教育的支援の充実 3 (体力) ①健康・安全教育の推進 ②教育相談の充実 ③食育の推進	2 (心情) ①人権尊重教育の推進～いじめへの組織的な対応～ ②道德教育の充実 ③特別活動の活性化 4 (小中連携) ①小中連携教育の推進と活性化 ②地域と連携・協働した教育の推進 ③学校評価による学校改善
---	--	--

今年度の目標(評価項目)	具体的な手立て	成果と課題	具体的な改善策
1 (知力)	①質の高い学びの実現 ・各種研修による教員の授業力向上 ・社会科、生活科校内研究の推進による授業改善 ・GIGAスクール構想の推進とICTの有効活用 ②個に応じた教育的支援の充実 ・通級指導教室と連携した授業のUD化の推進 ・多様な学びの場の保障ときめ細やかな指導の実施(通常級・サポート級・取り出し指導・入り込み指導・通級指導教室など) ・保護者との合意形成に基づく合理的配慮の提供	・校内外の研修を通して、川崎市教員育成指標に合わせた資質・能力や授業力の向上に努めることができた。特に教職員が各々の個性を生かして講師となるミニ研修は効果的であった。今後もこのように過負担なく研修を積める機会を設けていきたい。 ・昨年度まで外国語科、外国語活動の研究推進を通して培ってきた児童の表現力・コミュニケーション力を他教科にもつなげようことを意識して授業改善に取り組んだ。また、今年度から社会科、生活科を通して行っている校内研究では、児童が自ら問題を発見し解決するような授業づくりに取り組み一定の成果を得た。 ・GIGA端末を調べ学習や発表ツール、意見交流等にも有効活用することができた。児童のスキルが上がり、児童が道具として必要な時に使う段階に移行できている。 ・専門的な通級指導教室担当教諭と日常的に連携できる環境を生かし、授業のUD化について積極的に共通理解を図った。しかし、学級間で対応に差があり、十分とはいえなかった。 ・学級以外にも学びの場を保障し、個に応じたきめ細やかな支援を行えるよう学校全体で対応することができた。しかし、担任と担当者との打ち合わせ時間の確保の難しさや対応できる教員の不足などの課題も残っている。 ・保護者との連絡を密にし、合理的配慮を可能な限り実施した。登校状況に改善が見られた児童も増加している。	・教職員一人一人が各々のステージに合わせた資質・能力や授業力が身に付けられるよう、日々の授業や研修を通して研修を積む機会を設ける。教職員の個性を生かしたミニ研修も継続していく。 ・今年度も社会科・生活科を軸にした校内研究を推進し、個別最適で協働的な学びを一体的に充実させた授業づくりを行っていく。 ・デジタル教科書も含め、GIGA端末の活用をより一層推進していく。 ・通級指導教室担当教諭の専門性を生かし、授業のUD化や効果的な個別支援の方法等を教職員に広げていく機会を今後も設定していく。児童ができる限り教室で安心して過ごせるような環境づくりに努める。 ・支援教育COを中心に、多様な学びの場と合理的配慮を保護者との合意形成に基づいて提供していくよう努める。必要時には保護者にも協力を求めていく。 ・小中の支援教育COの連携を強化し、一貫性のある支援体制を構築する。
2 (心情)	①人権尊重教育の推進 ～いじめへの組織的な対応～ ・ハートフルはるひ野プランの推進 ・いじめ防止基本方針に沿った組織的な対応と、早期発見への取り組みの推進 ・「共生＊共有プログラム」による人間関係づくりなど、いじめを生まない学校づくりへの取り組みの推進 ②道德教育の充実 ・教育活動全体を通じての道德教育の実践 ③特別活動の活性化 ・委員会やクラブ、児童会などの活動の充実 ・異学年交流の活性化 ・児童会と生徒会の連携	・昨年度に引き続き、「共生＊共有プログラム」の計画的な実施や、いじめ防止標語づくりなどを通して、自他ともに尊重し、よりよい人間関係をつくれるように努めた。「共生＊共有プログラム」については今年度効果測定の見取りなどについて職員研修も行い、全教員が実施後の指導に繋げられるようになった。 ・いじめに関するアンケートや日々の児童の見取りからいじめの早期発見に努め、いじめ防止対策委員会や主任会での共有、対策の検討、必要に応じた外部機関との連携など、学校全体で取り組むことができた。特に今年度はアンケート結果や日々の見取りについて担任と支援教育CO、教育相談担当を中心に事後の経過観察や記録を確実にしていく体制を構築することができた。 ・昨年度の保護者アンケートから、いじめに関する学校の対応が見えにくいとの意見があったため、基本的な対応のフローチャートを配付し、理解を求めた。 ・委員会の活動をポスターや集会を通して学校全体に広げようしたり、高学年児童が下級生と関わる機会を積極的に設けたりと特別活動を充実させたことが、児童の自尊心や自己有用感を高めることにつながった。 ・児童会と生徒会が連携した朝のあいさつ運動を実施することができた。	・本校版キャリア在り方生き方教育のハートフルはるひ野プランを推進する。 ・「共生＊共有プログラム」を引き続き計画的に実施し、児童指導に生かしていく。 ・いじめ防止については早期発見に努め、人権尊重教育を通年で行っていく。 ・あいさつ運動や道德の授業、特別活動等を通して良好な人間関係づくりを推進し、いじめを生まない風土作りを行い引き続き力を入れる。 ・演劇(音楽)鑑賞会など芸術に触れる機会を増やすとともに、校内の環境整備に努め、豊かな心情を養う。 ・委員会など児童主体の活動をさらに活性化し、異学年交流を深めることで発達段階に応じた充実感、達成感をもたせる。 ・小中で時間を調整し、児童会と生徒会の連携交流活動を活性化させる。
3 (体力)	①健康・安全教育の推進 ・危機管理マニュアルの周知徹底と実用化 ・情報モラル教育の充実 ・感染症や熱中症等への対策の徹底 ・アレルギー対応の徹底 ②教育相談の充実 ・支援教育COを中心にした諸機関との連携 ・児童・保護者の不安に寄り添った教育相談の実施 ③食育の推進 ・食を大切にすることを育成 ・地域に根差した食育推進 ・給食における事故防止	・危機管理マニュアルを再点検し、修正を加え、より実用的なものにした。また、防災引き取り訓練を昨年より早い年度初めの5月に実施し、緊急時に備えた。 ・外部団体の出前授業も活用しながら通年を通して情報モラル教育を実施した。GIGA端末の扱いについては、教職員全体で使用するルールを見直し、児童指導部とも連携して安心安全な活用ができるよう努めた。 ・学校栄養職員と養護教諭を中心にアレルギー管理を徹底し、給食の安全を確保することができた。 ・支援教育COのほかにも教育相談担当をおき、二名体制で取り組んだことで、児童への支援や保護者との連絡相談の内容が広がった。学級担任への支援にもつながっていた。 ・地域の特色を生かし、生活科や社会科、総合的な学習の時間に食農教育を実施した。児童の地域や食への関心が高まった。 ・栄養職員が担任と共に食育の授業を行ったり、給食時に巡回して準備や片付け、喫食のルールを指導したことが児童の意識を高めた。	・危機管理マニュアルの点検、修正を年度ごとに行う。引き取り訓練と集団下校訓練は今後も4・5月中に実施し、緊急時に備える。避難訓練についても様々な場面を想定して行っていく。 ・情報モラル教育については、実際に課題となっていることに対応できるような内容を選び通年で実施する。また、GIGA端末に関するルールは児童の活用状況を見ながら年度初めに全職員で確認し、指導していく。 ・児童や保護者がより安心して相談できる体制づくりを進める。学級担任だけでなく、学校全体で、外部機関とも連携しながら支援していくことを、学校説明会やCOだよりなどで保護者に伝えていく。 ・総合的な学習の時間と連動し、地域の特色を生かした食農教育を進める。 ・アレルギー管理や安心・安全な学校給食の提供については年度初めに全職員で研修を行って共通理解し、必要に応じて随時確認していく。
4 (小中連携)	①小中連携教育の推進と活性化 ・小中連携活動の推進 ・日常的な交流活動の実践 ・小6プレ部活動実施 ・小中教職員合同OJT研修実施による連携強化 ・開校20周年への準備 ・学校運営協議会を中心とした教育活動の実践 ・地域行事への協力 ・地域教育会議(地域学校協働本部)との連携強化 ②地域と連携・協働した教育の推進 ・地域教育会議(地域学校協働本部)との連携強化 ③学校評価による学校改善 ・学校評価アンケート実施 ・学校運営協議会での協議による学校改善推進	・スポーツフェスティバルやアートフェスティバルは昨年度の内容を改善し、今後の基本となる形を構築することができた。 ・9年9月のプレ部活動の実施が2年目となったが、6年生と中学生をつなぐ機会となっている。児童の希望制となるため部活動によっても参加人数に差があり、今後工夫していく必要がある。 ・小中職員合同での授業研究会で互いの授業を見合い、意見交流を行うことができた。視点に応じて、授業改善に繋げることができた。 ・はるひ野町内会の夏フェスに協力することができた。 ・地域教育会議主催の星空ウォッチングやクリスマスチャリティコンサートに協働して取り組むことができた。 ・学校評価アンケートの項目や文言を見直し、より学校運営に沿ったアンケートを実施することができた。	・小中連携活動を、児童生徒を主語にして考えた活動となるよう修正を加えながら発展させる。 ・プレ部活動への参加の仕方を検討し、より教職員、児童生徒の小中連携を深めて実施できるようにする。 ・小中教職員が協働して取り組む場面を増やし、学校改善や授業改善につなげていく。 ・学校運営協議会と地域教育会議との連携を図り、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ・開校20周年に向けた準備を進める。 ・学校評価アンケートについても、毎年よりよい形を模索していく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
○学習内容の理解度については、児童・保護者ともに学校評価アンケートで高い数値が出ている。また、個に応じた支援についても、保護者の皆様のご理解・ご協力のもとで授業のUD化の推進や多様な学びの場の活用などを行うことができた。 ○あいさつについては、児童会活動をはじめとする様々な取り組みにより児童の意識が高まり、「あいさつをしている」という項目の数値は高く伸びているが、保護者アンケート結果とは大きなずれが出ている。校内だけでなく、地域でもあいさつができる児童を地域で協力して育てていく。 ○保護者アンケートでは、「いじめ・不登校への組織的な対応」について、よわわらないという回答が昨年度よりは減少しているものの、他の項目より多かった。今後も学校の取り組みについてお伝えする機会を増やしていく。 ○児童・保護者ともに、はるひ野の特徴を生かした小中連携には肯定的なアンケート結果が出ている。今後もより連携の在り方を考えていく。 (学校運営協議会より) ○子どもたちに必要な資質能力を学校と地域とで育んでいくことが大切である。 ○子どもたちには必要に応じて、はるひ野の特色を生かした小中連携には肯定的なアンケート結果が出ている。今後もより連携の在り方を考えていく。	○コロナ禍も一応の終息となり、停止・縮小してしまっていた活動を新たな形に工夫して実施することができた。児童の学校生活を充実させたいという教職員の思いや、保護者・地域の皆様からご理解・ご協力をいただけたことが児童の成長につながった。小中連携についても、プレ部活動やアートフェスティバルでの体験活動などが定着しつつある。次年度ははるひ野小学校だから可能となるより良い小中連携活動を実施していきたい。 ○学校の基本は日々の授業と考えており、GIGA端末の活用も含め、教員の授業力向上に取り組んだ。教材研究や社会科・生活科を軸にした授業研究、様々な研修等を通して、授業改善や指導力の向上が見られた。 ○いじめ防止には全職員で取り組み、早期発見・事後支援のしくみや組織的な対応なども強化された。しかし、友人関係で心を痛める児童は多い。自他ともに尊重できる心を持って、「いじめを生まない風土」づくりに次年度も尽力していく。 ○開校以来、「ハートフルはるひ野プラン」を軸として、9年間を見通した教育活動を実践してきたが、コロナ禍以降に再開・改善された活動をより発展させていく。コミュニティスクールとして、学校・家庭・地域が一体となった学校づくりを進めていきたい。